

G-3 家庭科教育に対する社会の認識に関する研究

東京学芸大 ○伊藤恵子 木村幸子 武井洋子 岡村喜美

目的 近年、各方面で教育改革の問題がとりあげられ、これまでの教育のあり方に検討が加えられつつあるが、家庭科教育に対しても幾多の批判があり、望ましいあり方についての構想が求められている。

私達は、望ましい家庭科教育の構想を探る手がかりとして、一般社会の家庭科教育に対する要求を認識し、今後の家庭科教育の構想の樹立に反映させることを目的として東京都における児童・生徒の父母、その他を対象として調査を行なったのでこれについて考察し、報告する。

方法 東京都を東部・中央部・西部・郡市部の4地区に分け、小学校6年・中学校2年女子・高等学校3年女子の父母、教師および教員養成大学・一般大学の学生等、約2000人を対象として、質問紙法により、調査を行なった。これらを地区別、年齢別に分け、比較検討した。

結果 次の項目について、考察した。

1. 家庭科教育の現状

1) 小学校・中学校・高等学校の家庭科教育に対する現状の認識

2) 現状に対する評価

2. 将来の家庭科教育

1) 履修形態

2) 目標

3) 教育内容と年齢の関係